



X

東京三栄会は連結経営重視を打ち出す三井物産の関係会社の会として1979年に設立されました。本シリーズでは「三栄会版プロジェクトX」と銘打って、メンバー企業で活躍する皆さんの「挑戦と変革の物語」を描くことで、今、新たなチャレンジを迫られている三井物産と東京三栄会各社の社員に向け「挑戦への勇気」を伝えていきます。

お問い合わせ先：業務統括部総括室 / 瑞 7569
東京三栄会ホームページ：http://www.san-eikai.or.jp

四千年の時を超えて「お茶」の効能を再認識 茶力テキンの可能性を探り続ける 原 征彦

さん 三井農林(株)常務執行役員 農學博士 研究開発統括本部長兼ポリフェノール事業統括本部長

茶力テキン研究のパイオニア

「日東紅茶」でおなじみの三井農林(株)の歴史は古く、三井合名会社以来の茶園事業・山林事業を継承して、今では主軸の食品事業から木材建材事業に至るまでその業容は多岐にわたっています。中でも茶力テキン(ポリフェノール)の研究は世界の最先端をいっており、一九八三年に食品総合研究所を開設。お茶の効能性物質研究を行い、その成果は各種飲料・食品・健康食品の製造・販売に広く活用されています。

お茶の抽出成分である茶力テキン



三井農林(株)の原さん

ンは健康に良いと注目されていますが、がんの制圧や成人病予防など医薬品としての可能性をはじめ、抗菌、抗ウイルスや抗酸化、消臭などの優れた作用も解明されるなど、その幅広い効能を応用した新しい商品が次々に開発されています。これら茶力テキンの研究と製品開発に携わったのが原さんです。

「お茶は中国四千年の歴史の中で、嗜好品として親しまれると同時に、多くの症状を抑えることから健康にも良いと言われてきました。しかし、成分ごとの効能は解明されておらず、一九八〇年、国立遺伝学研究所が緑茶煎汁には遺伝子の突然変異を抑制する作用があると発表したこと为契机に、日本の企業として初めて、茶力テキンの研究に着手しました。当時、茶力テキンはサンプルすら存在せず、茶葉からカテキン類を抽出する技術を開発して分離精製をしな

くはならなかったもので、文字通り一からのスタートでした。茶力テキンの成分であるエピガロカテキンガレートが微生物の突然変異抑制作用活性本体であることを突き止め、直ちにお茶からカテキン類を大量に分離精製する装置を製作、茶力テキン類を高濃度に含む粉末(のちに「ポリフェノール」と命名)および四種類のカテキン類を、純白な結晶として取り出すことに成功しました」と、苦難と喜びの当時を回想します。

がんの抑制作用を発見

このように、同社研究所は世界に先んじて、茶力テキンの大量抽出に成功しました。さらに、遺伝子の突然変異を防ぐからには、がんの抑制作用もあるのではと考え、実験を重ね、茶力テキンのすべての効用を確認。発がんやがんの増殖を抑える力があることを明らかにしました。

一九八五年にこれらの研究結果を米国の専門誌に発表し、当時、

お茶を飲めばがんを予防できるとマスコミに取り上げられ評判になりました。原さんは、カテキンの研究で一九九〇年に母校の東京大学から農学博士号を取得、国内外に書籍を上梓するなど、世界でも著名な「カテキン博士」として活躍しています。

お茶は今、四千年の時を超えて、ようやく科学の光が当てられ、予想もなかった新しい世界へと活躍の場を上げています。

原さんは「当社は、茶力テキンの機能を活用した製品を、将来的には衣や住の分野にまで広め、国内のみならず海外へも積極的に展開していきます。さらに、懸念の医療品素材への可能性を含み、高齢化社会における人々の健康、そして新しい感染症の予防など、来るべき社会で重要な役割を担うものと確信します」と、茶力テキンの可能性を力強く語りました。

(リポーター…東京三栄会広報委員長・三井物産ハウステクノ(株)

／安藤康綱